

# 『高齢化と福祉施設』

足立区立蒲原中学校 三年六組

本田 創也

私は先日、祖父母の家に行く機会がありました。祖母は体が悪く、老人ホーム、いわゆる社会福祉施設に毎日のように通っていたのです。そこで私はお金の面について調べてみました。祖母は年金で何十万円というとても多い額をもらっていましたが、なんと老人ホームに通うお金の方がはるかに高かったのです。そこで私は疑問を持ちました。「老人ホームに通ったり住んだりするお金が年金よりも高かったら、老人ホームに住まなければならぬ人はいったいどのような生活すればいいのか。」と。実際に入居一時金が0円の施設は全体の三割といわれています。そして、仮に入居一時金が0円だとしても、その後の月額料金が高くなる可能性もあります。しかし、施設によっては安いところもあるし、公的施設であれば初期費用は無料のケースがほとんどです。しかし私の祖母が住んでいるような田舎ではそのような施設は数少なく、スタッフの人数も限られてくる。おまけに、施設が少ないために入居希望者が多くなり、その分負担が大きくなるわけなので、お金がかなりかかります。

私は年金は、老後に安定して安心してくらせるための公的なお金だと思っていました。しかし、今の祖母もちろんのこと、多くの高齢者が苦しんでいるのだということを感じています。定年退職ということもあり、高齢者は自分の老後のお金を、生産年齢

時に、ためておかなければなりません。それはとても厳しいです。生産年齢の人々はただでさえ物価が高く、それなのに給与が安いという今の時代を生きています。私は、直ちに高齢者の支援を行うべきだと思いました。そこでやはり一番の問題が社会福祉施設利用のお金です。年金では支払えない多大なるお金です。今の日本は、税金を都市の開発、再開発、または過疎地域での開発に力を入れていますが、まずその前に、社会福祉施設の数を増やしたり、高齢社会であるからこそ、老人ホーム利用の無償化をしたりしていくべきではないのかなと思います。

ただ単に無償化ではなく、高齢者は社会福祉、介護を求めているので、年金の金額を減らし、その分のお金を働くスタッフの給料や施設を建てる費用にすれば良いと私は深く思います。年金に力を入れるのではなく、高齢者が住みやすい環境を作っていくことに全力を注いでほしいと切に願います。人間は歳を取るものですから、体は当然、不自由になっていきます。そして総人口の三割が高齢者の超高齢社会の日本であるからこそ、徹底すべき政策の一つかと思えます。

この機会に税についていろいろなことを学ぶことができました。よりよい社会になっていくことを願います。